

(別紙1)

## 総括研究報告書

課題番号	2021B-26				
研究開発課題名	妊娠・分娩・新生児期を包括した周産期データベース作成				
分類※	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S
主任研究者	所属	周産期・母性診療センター			
	役職	産科部長			
	氏名	梅原永能			
実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日				

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究  
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

### 成果の概要

産婦人科医、助産師、看護師、新生児科医、麻酔科医など様々な医療者が独自のデータを一括で管理可能な、経時的かつ診療科横断的なデータベースの構築を目的としている。各部署で長年使用している現在のデータベースは必要との意見が多かったことから、データベースは今まで通り使用し、別に新たに設置した周産期用サーバー (Dell 社 Power edge R350 Sever) に様々な情報 (分娩記録・血液検査データ・妊婦健診診療録・分娩記録・産科麻酔記録・新生児記録) を格納する方法を取ることとした。格納された各データベースはオープンソースリレーショナルデータベースシステム MariaDB により紐付けることにより、データの特定を可能とした。本年度は臨床研究に必要な情報を周産期サーバーから特定収集し、アウトプットするシステムの開発を行うとともに動作可能なことを確認した (セキュリティの観点から、周産期診療部ユーザーの使用時にはパスワード認証システムも同時に導入済みである)。データ格納時に予想された欠損データは想定外に少なく、ビッグデータに対し再入力を必要としないと判断して第1次診療科横断的データベースの構築が完了した。今後は各システムのデータを6-12ヶ月に1回の割合でデータ格納を行い、随時アップデートするとともに必要なデータが出現すれば追加格納を試みる予定。現在横断的成育周産期データベースを用いた臨床研究の計画を行っている。(例として「Grade-A (超緊急) 帝王切開における母体予測因子/長期予後の解析」、

「脳低体温療法施行例の長期予後の解析」、「新生児仮死 (Ap score/臍帯動脈 pH) と 1 か月健診時の発育と長期予後」、「母体甲状腺機能異常とマススクリーニング結果および長期的甲状腺機能評価」などが挙げられる。)